

テーマNo.1	なぜ、若者は大学に行くべきか
内 容	<p>世界の若者で、大学へ行ける人は、1%にも満たない。</p> <p>日本の若者は恵まれている。日本には大学がたくさんある。奨学金制度も充実している。</p> <p>意志さえあれば誰もが、大学で勉強することができる。</p> <p>実は、大学ほど若者の力を伸ばせる場はない。</p> <p>講座では、以下の点から、大学での若者のパワーアップを解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本格的な知力としての「教養・専門知識」</li> <li>②多様な人間関係の中でつける「強い人間力」</li> <li>③自由な環境だからこそつくれる「最高の思い出」</li> </ul>

テーマNo.2	なぜ、若者は働くべきか
内 容	<p>現在日本には、学校も行かない、仕事もしない、仕事をするための訓練も受けようとしていない、ニートと呼ばれる若者がたくさんいる。</p> <p>豊かな社会になったためか、守られすぎているためか、働くという価値がどんなに貴重なことかが、分からなくなっているようだ。</p> <p>講座では、若者にとって働くことの価値を、以下の点から解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①働くことによって身につける「さまざまな人間への対応力」</li> <li>②働くことによって得られる「生きるために役立つ能力」</li> <li>③働くことによって知る「社会の本当の姿」</li> </ul>

テーマNo.3	なぜ、若者は世界を知るべきか
内 容	<p>超高齢化、財政赤字、経済成長の鈍化、格差、社会不安など、今日本は大きな危機に直面している。しかし、広く世界を見れば、日本が生き残るヒントがたくさんみつかる。</p> <p>講座では、以下のような世界各国の独創的な社会制度について解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①大胆な政策転換を可能にするアメリカの大統領制</li> <li>②少ない労働時間でゆったり暮らせるオランダのワークシェアリング</li> <li>③医療・年金・生活などで不安がない北欧の福祉社会</li> </ul>